

領域開拓プログラム(研究テーマ公募型研究テーマ)

◆課題: 嗜好品の文化的・社会的意味

◆研究テーマ: 失われた飲食文化の復活と現代に問いかけるその意義

研究期間: H29.10~H32.9

委託費総額: 13,143千円

<研究代表者>

伊藤信博: 名古屋大学大学院人文学研究科/助教



<専門分野>

文化史 室町文学

<Webページ>

<https://sites.google.com/site/emonogatari/Onagoya/>

<研究目的・概要>

・室町や江戸時代の飲食文化や嗜好品に関する研究が不足するという課題が存在



人文学と生命農学両分野の連携による遺産的飲食文化の普遍的価値を解明

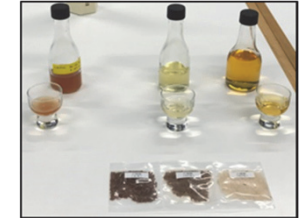
- ・室町、江戸時代における飲食文化の研究。
- ・該当時代に耕作されていた大唐米の栽培。
- ・大唐米による造酒や菓子、料理の再現。
- ・研究成果の発信と文化遺産の普及を図る。



過去の嗜好品の価値を喧伝し、産学官技術連携による商品化や地域貢献の実施。

<研究計画の特徴>

地方自治体の休耕田において、大唐米を栽培し、「重醸酒」造酒実験を実施。 →



文献学研究により、過去の嗜好品や本草学による酒の肴や料理の成立を研究。この二つを併せて、過去の飲食文化を再現。

<目標とする研究成果>

(1) 室町・江戸時代の飲食の嗜好を解明。

忘れられた日本独自の飲食文化を現代に再現

(2) 造酒や麴に新たな知見を示す。

大唐米(糯米)による造酒販売の可能性や麴を使用する食品の開発に寄与し、地方自治体の活性化を図る。

<将来展望>

大唐米栽培や造酒、発酵食品の現代への展開や学術領域を超えた研究開拓。